

タカクラ・テル（高倉輝） 著作目録

2021 年 1 月 10 日現在

作成 山野 晴雄

注：△を付した著作は未確認のもの。

著作名	雑誌名	出版社名	発行年月日
「魚釣り日記」	『校友会雑誌』第 18 号	宇和島中学校	1907. 7.--
＊筆名 高倉輝豊			
「日本の国民性と其文学」	『新小説』第 16 年第 5 号		1911. 5. 1
＊筆名 高倉輝（以下同じ）			
（戯曲）「赤い鍵」	『科学と文芸』第 1 巻第 4 号		1915.12. 1
（訳）コンスタンチン・バリモント「鈴蘭の花」	『世界』第 141 号		1916. 4. 1
（訳）ドストエーフスキー「小供」	『世界』第 142 号		1916. 5. 1
（口絵）「露国詩人バリモント肖像並手蹟」	『芸文』第 7 年第 6 号		1916. 6. 1
「コンスタンチン・バリモント」	『世界』第 144 号		1916. 7. 1
（訳）コンスタンチン・バリモント「詩郷 日本に於ける二週間」	『世界』第 146 号		1916. 9. 1
「上方舞踊の危期」	『邦楽』創刊号		1916.12. 1
＊筆名 巽仙吉			
「プーシキン評伝」	『芸文』第 8 年第 3 号		1917. 3. 1
「プーシキン評伝」	『芸文』第 8 年第 4 号		1917. 4. 1
「上田敏博士の追憶（上）～（下）」	『読売新聞』		1917. 7.13 ～ 15
「露国ノ定期刊行物ニ就テ（1）」	『経済論叢』第 5 巻第 3 号		1917. 9. 1
「露国ノ定期刊行物ニ就テ（2・完）」	『経済論叢』第 5 巻第 4 号		1917.10. 1
「エ・ルハーレン手引草」	『学燈』第 21 巻第 11 号		1917.11. 1
「バリモント詩抄（一）」	『芸文』第 9 年第 2 号		1918. 2. 1
「バリモント詩抄（二）」	『芸文』第 9 年第 3 号		1918. 3. 1
「バリモント詩抄（三）」	『芸文』第 9 年第 4 号		1918. 4. 1
「南座観劇記」	『演芸画報』第 5 年第 5 号		1918. 5. 1
「戯曲 月の出 グレゴリイ夫人」	『芸文』第 9 年第 6 号		1918. 6. 1
「ゴオゴリ評伝」	『芸文』第 9 年第 9 号		1918. 9. 1
「ゴオゴリ評伝（二）」	『芸文』第 9 年第 11 号		1918.11. 1
（訳）「西人の眼に映じたる真淵の神道説」	『心の花』第 22 巻第 11 号		1918.11. 1
「ゴオゴリ評伝（三）」	『芸文』第 10 年第 4 号		1919. 4. 1
「ゴオゴリ評伝（四）」	『芸文』第 10 年第 6 号		1919. 6. 1
「戯曲 砂丘」	『改造』第 1 巻第 7 号		1919.10. 1
「ゴオゴリ評伝（五）」	『芸文』第 10 年第 12 号		1919.12. 1
「戯曲 焰まつり」	『我等』第 2 巻第 1 号		1920. 1. 1
「ゴオゴリ評伝（六）」	『芸文』第 11 年第 2 号		1920. 2. 1
「山口先生と自分」	『芸文』第 11 年第 6 号		1920. 6. 1
（訳）「露詩小曲」	『芸文』第 11 年第 10 号		1920.10. 1
「『牧羊神』」	『芸文』第 11 年第 12 号		1920.12. 1
「戯曲 孔雀城」	『改造』第 2 巻第 12 号		1920.12. 1
「吉利支丹紀行」	『心の花』第 25 巻第 3 号		1921. 3. 1
『心の劇場』	内外出版		1921. 5.10
「戯曲 切支丹ころび」	『改造』第 3 巻第 9 号		1921. 9. 1
（訳）「書物の表書 ギッピウス夫人」	『露西亜芸術』第 2 巻第 1 号		1922. 1. 1

『三部曲 女人焚殺』（高倉輝著作集第一輯）	アルス	1922. 1.15
「著者より読者へ」（『三部曲 女人焚殺』付録）		
「危険思想？…(上)(下)」	『読売新聞』	1923. 1.17 ~ 1. 18
「永井荷風の作品」	『明星』第3巻第3号	1923. 3. 1
『戯曲集 海峡の秋』（高倉輝著作集第二輯）	アルス	1923. 4.10
『長篇小説 蒼空』（高倉輝著作集第三輯）	アルス	1923. 6. 1
「京都」	『詩と音楽』第2巻第7号	1923. 7. 1
『我等いかに生く可きか』（高倉輝著作集第四輯）	アルス	1923. 7.28
「京都」	『詩と音楽』震災記念号	1923. 9. 1
「斯うして嬰兒が此の世に生れた」	『女性』第4巻第4号	1923.10. 1
「波の音」	『サンデー毎日』秋季特別号（第2年第43号）	1923.10. 5
「文学の本質に就て（上）～（下）」	『信濃毎日新聞』	1924.1.26-1.28
「夫婦」	『アルス新聞』第5号	1924. 6.10
『かうして嬰兒が此の世へ生れた』（高倉輝著作集第五輯）	アルス	1924. 6.15
「白日漫語（一）」	『日光』第1巻第4号	1924. 7. 1
＊筆名 源豊		
「嬰兒の智慧 律・愛・神・真実・創造」	『アルス新聞』	1924. 7. 5
「永遠の反逆者」	『アルス新聞』	1924. 7.20
「自由大学に就て」	『自由大学とは何か』伊那自由大学パンフレット 伊那自由大学会	1924. 8.10
『戯曲集 長谷川一家』（高倉輝著作集第六輯）	アルス	1924. 9.18
（訳）「バリモント作 我等太陽の如くならん」	『アルス新聞』	1925. 1. 1
「露西亜文学研究（一）」	『自由大学雑誌』第1巻第1号	1925. 1.10
「自由大学会員諸君に」	『自由大学雑誌』第1巻第1号	1925. 1.10
「新村博士の『南蛮更紗』を読む」	『アルス新聞』	1925. 2. 5
「天地玄黄」	『自由大学雑誌』第1巻第2号	1925. 2.10
＊筆名 妙妙道人		
「天地玄黄」	『自由大学雑誌』第1巻第3号	1925. 3.10
＊筆名 ×××		
「露西亜文学研究（二） プウシキン（二）」	『自由大学雑誌』第1巻第4号	1925. 4.10
「天地玄黄」	『自由大学雑誌』第1巻第4号	1925. 4.10
＊筆名 ×××		
「露西亜文学研究（三） プウシキン（三）」	『自由大学雑誌』第1巻第5号	1925. 5.10
「天地玄黄」	『自由大学雑誌』第1巻第5号	1925. 5.10
＊筆名 ×××		
『長篇小説 阪』（上巻）（高倉輝著作集第七輯）	アルス	1925. 6. 6
「露西亜文学研究（四） プウシキン（四）」	『自由大学雑誌』第1巻第6号	1925. 6.10
「熊 芸術と社会運動との結合点」	『クラルテ』第2号	1925. 7. 1
「子を愛するの記」	『産児調節評論』第6号	1925. 7. 3
「露西亜文学研究（五） プウシキン（五）」	『自由大学雑誌』第1巻第7号	1925. 7.10
「露西亜文学研究（六） プウシキン（六）」	『自由大学雑誌』第1巻第9号	1925. 9.10
（アンケート）「産児調節是か非か」	『性と社会』第2巻第1号	1926. 1. 1
『長篇小説 阪』（下巻）（高倉輝著作集第八輯）	アルス	1926. 4. 8
『長篇小説 阪』（上巻・下巻）（高倉輝著作集第七輯・第八輯）	アルス	1926. 4. 8
「赤の辨（上）～（下）」	『都新聞』	1926.4.25-4.27
＊筆名 閑々亭有人		
「別所温泉」	『アルス・グラフ』第2巻第5号	1926. 5. 1
『考察 生命律とは何ぞや』（高倉輝著作集第九輯）	アルス	1926.11. 4
「風流七久りの里」	『別所時報』第10号	1926.11.10

*筆名 閑々亭有人

「別所四季」	『別所時報』第 10 号	1926.11.10
「大原幽学のこと 思温荘雑話（一）（一）～（九）」	『信濃毎日新聞』	1927.1.7-1.15
「国際聯盟とモオパッサン 思温荘雑話（二）（一）～（二）」	『信濃毎日新聞』	1927.3.19-3.20
「『日本的』であると言ふこと（一）～（三）」	『都新聞』	1927.3.31-4. 2
「正受老人の跡を訪ふ 思温荘雑話（三）（一）～（五）」	『信濃毎日新聞』	1927.6.12-6.16
「高瀬川（1）～（197）」	『都新聞』	1927.6.18-12.31
『世界童話集（上）』（日本児童文庫 18）	アルス	1927.12.10
「伽藍覆滅 九条武子夫人の死（一）～（四）」	『都新聞』	1928.2.17-2.20
「インテリゲンチアとは何か（一）～（三）」	『都新聞』	1928.6.18-6.2
『チェーホフ集』（近代劇全集第 28 巻・露西亜篇）	第一書房	1929. 1.10
（訳）「魚の舞踏（クルイロフ作）」	『学習新聞』第 19 号	1929. 1.10
「耕す者は永遠である（農村問題私見）」	『伊那自由大学』第 1 号	1929. 3. 5
「耕す者は永遠である」	『神川』第 28 号	1929. 4. 1
「山本宣治のこと」	『社会及国家』第 157 号	1929. 4. 1
（編）『性教育』（山本宣治全集第 3 巻）	ロゴス書院	1929. 5.15
（編）『性と社会』（山本宣治全集第 4 巻）	ロゴス書院	1929. 5.25
（編）『産児調節論』（山本宣治全集第 6 巻）	ロゴス書院	1929. 9.15
（編）『戦争の生物学（上巻）』（山本宣治全集第 1 巻）	ロゴス書院	1929. 9.18
「編輯者の言葉」（山本宣治全集第 1 巻解説）		
『印度童話集』（日本児童文庫 14）	アルス	1929.10. 5
（編）『無産者生物学』（山本宣治全集第 7 巻）	ロゴス書院	1929.12.25
（編）『現代の両性問題』（山本宣治全集第 5 巻）	ロゴス書院	1929.12.25
「農民運動のラッパ吹き拝命」	『上田毎日新聞』	1930. 1.28
「山宣の死と一匹の寄生虫の死」	『産児制限評論』第 3 巻第 3 号	1930. 3. 7
「百姓の唄（1）～（66）」	『都新聞』	1930.7.2-9.5
（アンケート）「此の負債をどうするか 本県農家負債対策を中心考察として」△	『長野県農会報』第 31 巻第 8 号	1930. 8. 1
（座談会）「農民生活に関する座談会」	『別所時報』第 55 号	1930. 8.25
『高瀬川（亡びゆく人人）』	ロゴス書院	1930.11.20
（編）『論文集』（山本宣治全集第 8 巻）	ロゴス書院	1930.12.20
「姥捨」	信濃毎日新聞社文芸部編『文芸の信濃』	1931. 1. 5
（編）『戦争の生物学（下巻）』（山本宣治全集第 2 巻）	ロゴス書院	1931. 2.15
「農民文学に関する一断片 坂本遼と木山捷平（1）～（4）」	『都新聞』	1931.7.8-7.11
（談）「県議戦に臨んで」	『別所時報』第 65 号	1931. 9.10
「農村問題について（一）」	『神科時報』第 87 号	1931.10.15
「百姓は憤ってゐる（1）～（3）」	『都新聞』	1931.10.29-10.31
「亡兒を悲む記（一）～（四）」	『都新聞』	1932.4.16-4.19
「作者の言葉」	『都新聞』	1932. 8. 3
「狼（1）～（102）」	『都新聞』	1932.8.6-11.16
「ソエート・ロシヤ 北極探検隊の話」	『別所時報』第 69 号	1933. 1.10
「新春身辺風景と河上肇博士の追憶（上）～（下）」	『信濃毎日新聞』	1933.2.8-2.9

「味噌（一）～（三）」	『都新聞』	1935.2.18-2.20
「批評について」	『文学評論』第2巻第4号	1935. 4. 1
「ドストエフスキーの流行（特に「憑かれたる人人」に就て）」	『ドストイェフスキ全集』月報第16冊 三笠書房	1935.4.--
「郭公（一）～（四）」	『都新聞』	1935.5.18-5.21
「糞の話」	『文学評論』第2巻第8号	1935. 7. 1
「映画雑感」	『文学界』第2巻第8号	1935. 8. 1
「文学当面の問題（文芸時評）」	『文学評論』第2巻第10号	1935. 9. 1
*筆名 高倉テル（以下同じ）		
「文学か文壇か 矢代兵衛の批評に答へて」	『都新聞』	1935. 9.16
「秋風たつ（一）～（五）」	『都新聞』	1935.9.23-9.27
「ソバ」	『文学界』第2巻第9号	1935.10. 1
（アンケート）「文化擁護国際会議に就ての諸家の感想」	『社会評論』第1巻第8号	1935.10. 1
「農民文学の意義、任務」	『文学評論』第2巻第12号	1935.11. 1
「国字国語運動の意義」	『唯物論研究』第38号	1935.12. 1
「ハガキ論壇」	『文学評論』第3巻第1号	1936. 1. 1
「言語のうえに現れた古代印度の婦人の位地（一）」	『性科学研究』第1巻第1号	1936. 1. 1
「（社会時評）史的角度から（1）～（3）」	『都新聞』	1936.1.19-1.21
「国語と国字（一）～（三）」	『新愛知』	1936.2.11-2.13
「言語のうえに現れた古代印度の婦人の位地（二）」	『性科学研究』第1巻第3号	1936. 3. 1
「『マンハイム教授』お見て」	『観客』第1巻第1号	1936. 3.10
「農村の恋愛」	『性科学研究』第1巻第5号	1936. 5. 1
「綴り方教育の根本問題（特に言葉の問題に就て）」	『教育』第4巻第5号	1936. 5. 1
「現在の国語・国字おどーすれば好いか（国語・国字革新のための新方針）」	『教育・国語教育』第6巻第5号	1936. 5. 1
「国字の問題（一）～（四）」	『新愛知』	1936. 6. 8-6.11
「農村に移り住んで（一）～（四）」	『都新聞』	1936.6.13-6.16
（座談会）「性的犯罪に関する座談会」	『性科学研究』第1巻第7号	1936. 7. 1
「言語の上に現れた古代印度の女性の位地（三）」	『性科学研究』第1巻第7号	1936. 7. 1
「阿衆婢」	『性科学研究』第1巻第7号	1936. 7. 1
「わざわざ読みにくく書いた本」	『書物展望』第6巻第7号	1936. 7.11
「日本国民文学の確立（上）」	『思想』第171号	1936. 8. 1
（アンケート）「性教育の経験と希望」	『性科学研究』第1巻第8号	1936. 8. 1
（アンケート）「(1)国語協会はどんな仕事をしたらよいか。(2)「国語運動」はどんな編集方針をとったらよいか」	『国語運動』第1巻第1号	1936. 8. 1
「日本国民文学の確立（下）」	『思想』第172号	1936. 9. 1
「クビの話（1）～（5）」	『都新聞』	1936.10.3-10.7
「宗教と性欲」	『性教育』第1巻第11号	1936.12. 1
「日本語の本質」	『国民思想』第2巻第12号	1936.12. 1
「芸術・写真・迷信」△	『カメラ・アングル』	1936.12.--
『尊徳読本』（人生読本第2巻）	建設社	1936.12.20
『芭蕉読本』（人生読本第1巻）	建設社	1936.12.25
『綴り方教育の根本問題』	東京帝国大学学生ローマ字会	1936.12.30

*筆名 タカクラ・テル		
『松陰読本』（人生読本第3巻）	建設社	1937. 1.20
『日蓮読本』（人生読本第5巻）	建設社	1937. 1.20
「正しいカナズカイ」	『地方文化』第1巻第1号	1937. 2. 1
*筆名 タカクラ・テル		
『良寛読本』（人生読本第4巻）	建設社	1937. 2.20
「ローマ字運動の過去・現在・未来」	『文字と言語』第11号	1937. 3. 1
（アンケート）「新生活運動スローガン」	『人生講座』第1年第3号	1937. 3. 1
『益軒読本』（人生読本第6巻）	建設社	1937. 4. 1
「大磯漫談 ウラナイ」	『ユマニテ』第2巻第3号	1937. 4. 1
「肅（1）～（4）」	『都新聞』	1937.4.27-5.1
「大磯漫談 新しい野球の見方」	『ユマニテ』第2巻第4号	1937. 5. 1
「国語・国字運動の根本問題」	『科学評論』第2巻第5号	1937. 5. 5
「日本語再建」	『中央公論』第52年第7号	1937. 7. 1
「大磯漫談 日本の映画」	『ユマニテ』7月号	1937. 7. 1
「日本人の名前」△	『国民思想』第3巻第8号	1937. 8. 1
（アンケート）「国語協会と『国語運動』」	『国語運動』第1巻第1号	1937. 8. 1
「漢字は日本にだけ残るか？」	『中央公論』第52年第9号	1937. 9. 1
「自由大学運動の経過とその意義 農村青年と社会教育」	『教育』第5巻第9号	1937. 9. 1
「ローマ字論の本質 松下秀男君に答える」	『文字と言語』第12号	1937. 9.20
「ミイラ・取りの話」	『国語運動』第1巻第3号	1937.10. 1
「カエル No ヘソ（1）」	『Romazi no Tomo』	1937.10. 1
「贗物（1）～（4）」	『都新聞』	1937.10.14-10.17
「綴方教育と実際生活」	『国語教育の総合的研究』	
	第一書房	1937.10.20
「支那文化と文字」△	『早稲田大学新聞』第86号	1937.10.27
「カエル No ヘソ（2）」	『Romazi no Tomo』	1937.11. 1
「国語の混乱に就いて」	『雑記帳』第2巻第10号	1937.11. 1
「教師と教養」	『生活学校』第3巻第11号	1937.11. 1
「カエル No ヘソ（3）」	『Romazi no Tomo』	1937.12. 1
「ツチダキョーソン土田杏村」	『新撰大人名辞典』第4巻	
	平凡社	1937.12.20
「果物 随筆的に書かれた文化史の話」	『生活学校』第4巻第1号	1938. 1. 1
『芭蕉読本』（人類読本第1巻）	建設社	1938. 1.25
『良寛読本』（人類読本第5巻）	建設社	1938. 1.25
『益軒読本』（人類読本第6巻）	建設社	1938. 1.25
「日支同文の意義（一）～（四）」	『都新聞』	1938.3.27-3.30
「支那事変と国語教育」	『教育』第6巻第4号	1938. 4. 1
「国語・国字問題の本質」	『科学ペン』第3巻第4号	1938. 4. 1
「子守り良寛」	『月刊新築地劇団』第19号	1938. 4. 1
「『子もり 良寛』について」	『テアトロ・パンフレット』第8輯	1938. 4.27
「国語問題と綴り方教育 言語文化と国語教育」	『教育・国語教育』臨時号	1938. 4.28
「外来語の問題」	『文字と言語』第13号	1938. 5.15
「綴り方教育の本質」	『教育』第6巻第6号	1938. 6. 1
「偉大な日本人 大原幽学」	『家の光』第14巻第6号	1938. 6. 1
「教室に於る人間愛とわ何か？」	『教育・国語教育』第8巻第6号	1938. 6. 1
「日本語の文法」	『三十日』第1巻第8号	1938. 6. 1
「標準語確立の基礎としての綴り方教育 百田さんの『綴り方読本』に触れて」		

『綴方学校』昭和13年6月号	1938. 6. 1
(アンケート)「児童読物・絵本の統制とそれへの希望 まづ編輯スタッフを作れ」	
『教育・国語教育』第8巻第7号	1938. 7. 1
「国語改善と発音の問題 日本語・進化論」	『教育・国語教育』第8巻第8号 1938. 8. 1
「西行と良寛」	『国民思想』第4巻第8号 1938. 8. 1
「フネ」	『コドモノクニ』第17巻第9号 1938. 8. 1
「良寛の出家」	『話』第6巻第9号 1938. 8. 1
(アンケート)「批判と提案 国語運動と国語協会(二)」	
	『国語運動』第2巻第9号 1938. 9. 1
「辞世」	『国語運動』第2巻第10号 1938.10. 1
「アジアの思想とアジアの言葉」	『思想』第197号 1938.10. 1
「世界最初の産業組合創立者 大原幽学」△	『国民思想』第4巻第10号 1938.10. 1
『一茶の生涯とその芸術』	ルミノ出版社 1938.10.28
「ヤマモトセンジ山本宣治」「リョーカン良寛」	『新撰大人名辞典』第6巻 平凡社 1938.10.31
「政治家」	『国語運動』第2巻第11号 1938.11. 1
「現代文学と国語改善」△	『月刊文章』昭和13年12月号 1938.12.--
「大原幽学」	『経済マガジン』第3巻第1号 1939. 1. 1
『大原幽学 世界で最初に産業組合を作った偉大な殉教者』	東邦書院 1939. 1.10
(アンケート)「中等学校の入学試験問題に対する希望」	
	『国語運動』第3巻第2号 1939. 2. 1
「日本語は進む」	『国語運動』第3巻第2号 1939. 2. 1
「経済小説 大原幽学(二)」	『経済マガジン』昭和14年2月号 1939. 2. 1
「大原幽学と現代」△	『国民思想』第5巻第2号 1939. 2. 1
「文学の話(一)」	『現代知識』第3巻第2号 1939. 2. 1
『ミソ・クソ・その他(随筆的に書かれた文化史)』	厚生閣 1939. 2.19
「国語問題と綴り方教育」	教育・国語教育編集部編『総合国語教育三十講』 厚生閣 1939. 2.20
「山本有三君の功績と私たちの責任」	『国語運動』第3巻第3号 1939. 3. 1
「産業組合の始祖 大原幽学」	『経済マガジン』第3巻第3号 1939. 3. 1
「文学の話(二)」	『現代知識』第3巻第3号 1939. 3. 1
「文学の話(三)」	『現代知識』第3巻第4号 1939. 4. 1
「農村教育論」	『教育・国語』第9巻第4号 1939. 4. 1
「農村共同組合の提唱」	『中央公論』第54年第5号 1939. 5. 1
「文芸と国語問題」	『国語運動』第3巻第5号 1939. 5. 1
「日本語」	『書窓』第7巻第4号 1939. 5.31
「Gakumonteki hoho Nisida kitaro」	『中央公論』第54年第6号 1939. 6. 1
「日本語の問題」	『中央公論』第54年第6号 1939. 6. 1
「蛙」	『教育・国語』第9巻第6号 1939. 6. 1
「沖縄県人の姓」	『国語運動』第3巻第7号 1939. 7. 1
「大原幽学 産業組合創立百年記念のために」	『中央公論』第54年第7号 1939. 7. 1
「みそと百姓と仏教」	『農業之日本』第2巻第10号 1939.10. 1
『大人の読本(随筆的に書かれた文化史)』	厚生閣 1940. 3.19
『大原幽学 世界で最初に産業組合を作った偉大な殉教者』	建設社 1940. 4.25
「大原幽学 その現代的意義」	『開拓 東亜一般誌』第5巻第10号 1941.10. 1
『長篇小説 大原幽学』	アルス 1940.12.31
(座談会)「国民文学の検討 大原幽学を中心として」	
	『日本読書新聞』第143号 1941. 1.15
「コトバ」	『東寶』第86号 1941. 3. 1

「日本語は世界に向かって進む」	『新若人』第1巻第7号	1941. 3. 1
「日本語の文法を」	『読売新聞』	1941. 3.15
「国民文学の樹立へ 内容と形式」	『読売新聞』	1941. 3.18
『評伝大原幽学 偉大なる殉教者 日本農村の師父』	建設社	1941. 3.25
「大原幽学と天保水滸伝 (上) ～ (下)」	『都新聞』	1941.4.12-4.14
「地方文化について」	『上毛新聞』	1941. 5.25
(アンケート) 「独ソ開戦の報を、何時、何所で、どんな風に聞きましたか? そして、どんな感想をもちましたか?」	『文芸』第9巻第8号	1941. 8. 1
「大原幽学」	『小学五年生』第21巻第5号	1941. 8. 1
(アンケート) 「読み落した古典作品」	『現代文学』昭和16年9月号	1941. 8.28
「西行」	『中央公論』第56年第9号	1941. 9. 1
『大原幽学伝』	アルス	1941. 9.10
「手作り品で節米」	『生活』第7巻第10号	1941.10. 1
「青銅時代」	『中央公論』第56年第11号	1941.11. 1
「大原幽学の村 事業とその意義」	『同盟グラフ』通巻271号	1941.11. 1
「国語教育」	『生活と文化技術』	
	白水社	1941.11.20
「幽学映画化について」	『時代映画』第20輯	1941.11.25
「農業のコトバ」	『都新聞』	1941.11.28
「映画の対位法」	『東寶』第95号	1941.12. 1
『本居宣長』(子供のための伝記)	小学館	1941.12.28
「グラフ特集 生れかわる日本農村」	『中央公論』第57年第1号	1942. 1. 1
「日本語と日本文化」	『新文化の理論』(新文化論講座第1巻)	
	刀江書院	1942. 1.15
(対談) 「日本農業の進む道 (一) 栃木県筑波村の現実を中心に」	『中央公論』第57年第2号	1942. 2. 1
(対談) 「日本農業の進む道 (二)」	『中央公論』第57年第3号	1942. 3. 1
「農業のことば」	『学燈』第46巻第3号	1942. 3. 1
「戦時下農村を守る女性たち」	『農村文化』第21巻第3号	1942. 3. 1
「地方文化とは何か とくにカメラの問題として」	『写真文化』第24巻第3号	1942. 3. 1
(対談) 「日本農業の進む道 (三)」	『中央公論』第57年第4号	1942. 4. 1
(対談) 「日本農業の進む道 (四)」	『中央公論』第57年第5号	1942. 5. 1
「新しい農民だましい」	『早稲田大学新聞』	1942. 5.20
「新しいおどりと音楽」	『東寶』第102号	1942. 7. 1
「ものの分からせ方」	『実業之日本』第45巻第23号	1942.12. 1
「箱根用水の話 (一)」	『中央公論』第58年第1号	1943. 1. 1
「箱根用水の話 (二)」	『中央公論』第58年第2号	1943. 2. 1
「箱根用水の話 (3)」	『中央公論』第58年第3号	1943. 3. 1
「箱根用水の話 (4)」	『中央公論』第58年第4号	1943. 4. 1
「箱根用水の話 (5)」	『中央公論』第58年第5号	1943. 5. 1
「日本の木のいろ「いろ」」	『日本木材協会誌』第2巻第6号	1943. 6. 1
「国民演劇の明けぼの (上) 移動演劇を中心に」	『中央公論』第58年第7号	1943. 7. 1
『ニッポン語』	北原出版	1944. 6. 4
「地方文化と新聞の使命 農事を知る記者を」	『日本新聞報』第139号	1944.6.10
「日本農業精神」	『構想』第7巻第9号 (第12号)	1944. 9. 1
「標準語確立の絶好の機会」	『少国民文化』第3巻第10号	1944.11. 1

「うつりかわり」	『信濃毎日新聞』	1945.11.27
「食いものの話 (一) じゃが芋」	『人民評論』第2号	1945.12. 1
(談) 「敗因を衝く (二) 非民主々義が敗戦の主因」		

	『信州民報』	1945.12.16
「信州の農業の過去・現在・未来」	『信濃』第 44 号	1945.12.25
「食いものの話（二） 米」	『人民評論』第 2 巻第 1 号	1946. 1. 1
（談）「新代議士は県民にかく約束する」	『信濃毎日新聞』	1946. 4.13
「青年の国と老人の国」	『信州青年ノ旗』第 1 号	1946. 5. 1
「ことばの革命 『アジアの革命は漢字の廃止から』（レーニン）」	『日本評論』第 21 巻第 6 号	1946. 6. 1
「塩尻村農民委員会（一）」	『文化評論』創刊号	1946. 6. 1
「銀座の麦」	『労働評論』第 1 巻第 1 号	1946. 7. 1
（座談会）「都市と農村 食生活を中心に」	『女性改造』第 1 巻第 3 号	1946. 8. 1
「天皇制ならびに皇室の問題」	『中央公論』第 61 年第 8 号	1946. 8. 1
「けやきのちかい」	『世界評論』昭和 21 年 8 月号	1946. 8. 1
（座談会）「都市と農村 食生活を中心に」	『女性改造』第 1 巻第 3 号	1946. 8.11
「思いだす人人 （1）～（7）」	『アカハタ』	1946.8.18-9.14
＊筆名 タカクラ・テル（以下同じ）		
「知識の良心」	『世界』第 9 号	1946. 9. 1
＊筆名 高倉テル		
「議事堂という所」	『政界ジープ』第 1 巻第 2 号	1946. 9. 1
＊筆名 高倉テル		
「塩尻村農民委員会（二）」	『文化評論』第 2 号	1946. 9. 1
＊筆名 高倉テル		
（主張）「『自作農創設案』とは何か？ 反動の新しい陰謀」		
	『アカハタ』	1946. 9. 8
「テイゲキの『どんどこ』」	『アカハタ』	1946. 9.17
「山本宣治の死」	『政界ジープ』第 1 巻第 3 号	1946.10. 1
「農業調査研究所」	『働く農民』第 1 巻第 2 号	1946.10. 1
「文化国家建設は掛声」	『時事通信 内外教育版』第 2 号	1946.10.16
＊筆名 高倉輝		
「ことばと文字 （1）～（3）」	『アカハタ』	1946.10.28-11.3
「IKURA HATARAITEMO, NINGEN WA KUENAI」		
	『日本評論』第 21 巻第 11 号	1946.11. 1
＊筆名 takakura teru		
（座談会）「農地改革と農村民主化の方向」	『労働評論』第 1 巻第 5 号	1946.11. 1
「けやきのちかい」	『若い農業』	1947.12. 1
「労働者のことば」	『労働者』第 4 号	1947. 1. 1
＊筆名 高倉テル		
「女はなぜズロースをはくか？」	『潮流』第 2 巻第 1 号	1947. 1. 1
「平和会議」	『帝国大学新聞』	1947. 1. 1
「文化国家建設の道 （上）～（下）」	『東京新聞』	1947. 1. 9-1.11
（討論）「人民の救済」	『日本週報』第 44・45 号	1947. 2. 2
「いくら働いても人間わ喰えない」	『労働運動』第 1 巻第 3 号	1947. 3.15
「子どもを愛する者は未来を愛するものだ」△	『信濃婦人新聞』	1947. 3.--
「ほんとうの選挙」	『政界ジープ』第 2 巻第 4 号	1947. 4. 1
「二男・三男」	『青年文化』第 2 巻第 3 号	1947. 4. 1
「山と人間 （1）～（8）」	『アカハタ』	1947.5.20-6.10
「塩尻村農民委員会（三）」	『文化評論』第 3 号	1947. 4.25
＊筆名 高倉テル		
「愛と死について」	『中央公論』第 62 年第 8 号	1947. 8. 1
（対談）「日本農業の将来 その近代化・機械化を語る」		
	『文化評論』第 4 号	1947. 8.25

「OTOKONO PANPAN (Yomoyamano Hanasi)」	『日本評論』第22巻第9号	1947. 9. 1
＊筆名 takakura teru		
『青銅時代』	中央公論社	1947. 9. 5
『ニッポン語』	世界画報社	1947. 9.25
「處女は純潔ではない」	『婦人公論』第31巻第10号	1947.10. 1
「美術工芸の新しい方向」	『美術と工芸』第2巻第3号	1947.10.15
(座談会)「別所村発展策の方向」	『別所新報』第13号	1947.12.10
(談)「新中央委員の横顔② 遠坂寛氏」	『アカハタ』	1947.12.27
「エンマ大王」	『VAN』第3巻第16号	1948. 1. 1
「ハコネ用水(1)」	『大衆クラブ』第4号	1948. 1. 1
「知識の良心」	三一書房編集部編『回想の三木清』 三一書房	1948. 1. 5
＊筆名 高倉テル		
「天皇のことば」	『アカハタ』	1948. 1.18
「子もり リョウカン」	『文化評論』第6号	1948. 1.25
「ハコネ用水(2)」	『大衆クラブ』第5号	1948. 2. 1
「けやきのちかい」	新青年文化協会編『けやきのちかい』 八雲書店	1948. 2. 1
＊筆名 高倉テル		
『ミソ・クソ・その他』	美知書林	1948. 2.10
「学生のために」△	『クロニクル』	1948. 2.17
「テロの話」	『信毎情報』昭和23年3月号	1948. 3.10
「ナガノ県参議院補欠選挙のけいけん」	『アカハタ』	1948.4.16-4.21
『我等いかに生くべきか』	八雲書店	1948. 4.30
「ハコネ用水(3)」	『大衆クラブ』第7号	1948. 4. 1
「自由民権の闘士 田中正造」	『アカハタ』	1948. 5.11
(座談会)「森田草平氏入党座談会 ①～③」	『アカハタ』	1948.5.18-5.20
「まえがき」	今村太平『映画論入門』 真善美社	1948. 6.20
『えんげき集 エンマ大王』	文化評論社	1948. 6.30
「ハコネ用水(4)」	『大衆クラブ』第8号	1948. 7. 1
「トーホー問題わ何お教えるか？」	『労働評論』第3巻第7号	1948. 7. 1
(対談)「明日の日本農業 アジアにおけるその位置と使命」	『農政評論』昭和23年8月号	1948. 8. 1
「ハコネ用水(5)」	『大衆クラブ』第10号	1948. 8. 1
「ハコネ用水(6)」	『大衆クラブ』第11号	1948. 9. 1
『長篇小説 大原幽学 (上)』	美知書林	1948. 9.25
『長篇小説 大原幽学 (下)』	美知書林	1948.10.20
「ハコネ用水(7)」	『大衆クラブ』第12号	1948.11. 1
『女』	改造社	1948.11. 5
『ニッポンの農業』	黄土社	1948.11.20
(編)『幸徳秋水選集』全4巻	世界評論社	1948.11.30
「長野県参議員補欠選挙のけいけん」	山辺健太郎編『党生活』 日本労農通信社	1948.12.25
(対談)「文芸放談」	『世界評論』第4巻第1号	1949. 1. 1
「あらしは強い木をつくる」	『アカハタ』	1949. 1. 1
「元日」	『大衆クラブ』第14号	1949. 1. 1
『大原幽学伝』	美知書林	1949. 1.10
「スワの五食」	『農業信州』第32巻第2号	1949. 2. 1
「前進座員の入党」	『アカハタ』	1949. 3. 9

「まえがき」	きむら・のぼる『いも』	
	美知書林	1949. 3.15
「花がさいた」△	『民主青年新聞』	1949. 3.--
「狼（第1回）」	『世界評論』第4巻第4号	1949. 4. 1
「不幸なる故に幸福な青年たち」	『われらの仲間』第7号	1949. 4. 1
『うたえ、わかもの』	民主青年出版部	1949. 4.10
「狼（第2回）」	『世界評論』第4巻第5号	1949. 5. 1
『愛と死について』	中央書籍	1949. 5.15
『愛と死について』	日本出版	1949. 5.15
「ホリ・アサコの死」	『アカハタ』	1949. 5.21
「狼（第3回）」	『世界評論』第4巻第6号	1949. 6. 1
「狼（第4回）」	『世界評論』第4巻第7号	1949. 7. 1
「狼（第5回）」	『世界評論』第4巻第8号	1949. 8. 1
「狼（第6回）」	『世界評論』第4巻第9号	1949. 9. 1
（対談）「風見章氏と高倉テル氏の対談 国際平和デーに寄せて」	『アカハタ』	1949. 9.30
「狼（最終回）」	『世界評論』第4巻第10号	1949.10. 1
（座談会）「日本映画をこう見る 青い山脈をめぐって」	『働く婦人』第27号	1949.10. 1
（対談）「今日を生きぬく心 革命の現段階と日本文学の課題」	『季刊理論』第10・11号	1949.11. 5
「ハコネ用水（一）」	『潮流』第4巻第12号	1949.12. 1
（座談会）「古典劇ルネッサンス 歌舞伎前進のために」	『日本評論』第24巻第12号	1949.12. 1
「まえがき」	クロタキ・チカラ『新文章学』	
	世界評論社	1949.12.15
「モリタ・ソーヘーさんの死」	『アカハタ』	1949.12.16
「ハコネ用水（二）」	『潮流』第5巻第1号	1950. 1. 1
「二十世紀のハムレット（文学おつーじて見た、ニッポン・プチブル層の運命）」	『中央公論』第65年第1号	1950. 1. 1
「共産党員のことば」	『新しい世界』第30号	1950. 1. 1
（対談）「李香蘭はどこへ行く」	『働く婦人』第30号	1950. 1. 1
「演劇と大衆について」	『テアトロ』第12巻第1号	1950. 1. 1
『ローマ法王の秘密 めぐみは誰に？』		1950. 2. 1
「ハコネ用水（三）」	『潮流』第5巻第2号	1950. 2. 1
『ハコネ用水の話』	潮流社	1950. 2.15
『ハコネ用水の話』	理論社	1950. 2.15
「ハコネ用水（四）」	『潮流』第5巻第3号	1950. 3. 1
（談）「革命運動はたのしい」	思想の科学研究会編『私の哲学 続』	
	中央公論社	1950. 4. 1
『うたえ わかもの』	暁明社	1950. 4.15
「大衆は組織しやすい」	『新しい世界』第34号	1950. 5. 1
「ニッポンの女 解放の夜あけおまえに」	『婦人公論』第36巻第5号	1950. 5. 1
「長野県参議員補欠選挙のけいけん」	山辺健太郎編『党生活』	
	黄土社	1950. 5.20
「カッコー」	『アカハタ』	1950. 6. 4
「人民に仕える文学 『シアチウ物語』をよんで」	『人民文学』創刊号	1950.11. 1
「夫婦げんか（まー、聞いとくれ その一）」		
	『青年時代』創刊号	1950.11. 1
「ぶたの歌」	『人民文学』1951年1月号	1951. 1. 1

『ハコネ用水』	理論社	1951. 3. 5
「わたしのあつてきた道」	『人民文学』1951年5月号	1951. 5. 1
「言語もんだいの本質」	『季刊理論』第16号	1950. 5.25
『新文学入門』	理論社	1951. 6.20
(対談)「民族演劇への課題 大衆はどんな芝居をのぞんでいるか」	『テアトロ』第13巻第5号	1951. 8. 1
「戯曲ぶたの歌」(脚色鈴木政男)	『新劇場』第1巻第3号	1951. 8. 1
『愛と死について』	葦会	1951.10. 1
「映画的手法」	『文学』第19巻第10号	1951.10.10
『ニッポンの女』	理論社	1951.10.15
『版画とローマ字 ぶたの歌』	理論社	1951.10.20
「ことば」	『学園評論』第2巻第2巻	1953. 3. 1
『新ニッポン語』	理論社	1952. 2.10
蕭蕭訳『箱根風雲録』	文化生活出版社	1953. 4.--
『高瀬川 亡びゆくひとびと』(タカクラ・テル名作選Ⅰ)	理論社	1953. 6. 5
『百姓のうた・狼』(タカクラ・テル名作選Ⅱ)	理論社	1953. 7. 5
『チェホフ戯曲集』(タカクラ・テル名作選Ⅵ)	理論社	1953. 8. 5
『文学論・人生論』(タカクラ・テル名作選Ⅴ)	理論社	1953. 9.10
『日本の封建制』(タカクラ・テル名作選Ⅳ)	理論社	1953.10. 5
『新文学入門』(増補新版)	理論社	1953.10.10
『大原幽学』(タカクラ・テル名作選Ⅲ)	理論社	1953.11. 5
「ぶたの歌」	『アガニョーク(OROHEK)』第23号	1953.--
「心の劇場(N. エヴレイノフ)」	神西清編『現代世界戯曲選集Ⅲ ロシヤ・ソヴェート篇』白水社	1954. 2.25
*筆名 高倉テル		
「ツチダキョーソン土田杏村」	『大人名事典』第4巻 平凡社	1954. 2.27
「ヤマモトセンジ山本宣治」「リョーカン良寛」	『大人名事典』第6巻 平凡社	1954. 6.15
蕭蕭訳『猪的歌』	人民文学出版社	1955. 3.--
「愛と死」	野間宏編『青春と革命』河出書房	1955. 8.10
朱中徳編文『箱根风云録』	美術读物出版社	1955. 8.--
「綴り方教育の本質」	猪野省三・菅忠道・他責任編集『日本児童文学大系』第6巻	1955.10.30
『Cîntecul porcului/Teru Takakura.Pînă cînd?/Yoko Ota;[în romînește de,Georghe Voropanov și Jaques Costin](Meridiane)』	Editura de Stat Pentru Literatură și Arta	1956.--
『Apele Hakonei, roman istoric / [în romînește de, Tatiana Malița și Rose Hefter]』	Editura de Stat Pentru Literatură și Arta	1956.--
金福訳『狼』	新文艺出版社	1956. 1.--
金福訳『农民之歌』	新文艺出版社	1956.10. --
奚国鈞改編『猪的歌』	上海人民美术出版社	1957. 9.--
路瑛『肥猪的歌』	文字改革出版社	1958. 9.--
辛人改編『日本姑娘的苦难』	上海人民美术出版社	1959. 4.--

「平和勢力を強める 不況のない社会主義国へ」	『信濃毎日新聞』	1959. 5.14
(対談)「中国あちこち」	『週刊わかもの』第2巻第21号	1959. 5.24
「わかい人たち」	『アカハタ』	1959. 5.25
(アンケート)「参院選県区わたしはこう訴えた 軍事化やめ平和外交」	『信濃毎日新聞』	1959. 5.31

「国外脱出九年間」	『文芸春秋』昭和34年6月号	1959. 6. 1
(談) 「まず九年間の”空白”、タカクラ氏、敗因を語る」	『信濃毎日新聞』	1959. 6. 3
「反戦運動のために中国で命をうしなったニッポン人について 読者の皆さんえのお願い」	『アカハタ』	1959. 9.23
「わたしは抗議する (上) ～ (下)」	『アカハタ』	1959.10.27-10.29
「タシケント精神 (上) (2) ～ (4)」	『アカハタ』	1960.1.12-1.15
「幸徳秋水の墓前にちかう」	『るねさんす』第144号	1960. 3.30
「新安保条約の本質」	『るねさんす』第145号	1960. 4.30
「九年ぶりに見たもの ①～⑧」	『アカハタ』	1960.8.4-9.22
「どー学習するか？」	『前衛』第175号	1960.11. 1
「たまをあらそう」△	『アカハタ』日曜版	1960.12 ～
「ニッポン国民文学のかくりつ」	桑原武夫編『芸術論集』(大学セミナー双書) 河出書房新社	1961. 6.--
「不当な裁判に抗議する」	『前衛』第184号	1961. 7. 1
(発言) 「愛国的文化人を結集 文化面から綱領の正しさを確認」	『アカハタ』	1961. 7.30
「民族の旗を高くかかげよう 党員文化人の新しい任務」	『アカハタ』	1961. 8. 7
「日本文化の民族性から綱領の正しさを証明する」	『前衛』第189号	1961.10. 1
(座談会) 「〈討議〉大衆芸術とはなにか」	『思想の科学』第36号	1961.12. 1
「カザミ・アキラ(風見章)さんの死」	『アカハタ』	1961.12.23
「ニッポン演芸の民族的要素について」	『前衛』第192号	1962. 1. 1
「南アルプスの宿」	『旅と宿』第9巻第1号	1962. 1. 1
(観戦記) 「杉内置碁道場 囲碁紳士録 碁を愛するコミュニスト 鈴木さん3子で善戦」	『棋道』	1962. 1. 1
「カザミ・アキラ(風見章)さんの思想的発展」	『新関東』第12巻第1号	1962. 1.25
「ニッポン民族とニッポン音楽」△	『第1回伝統音楽研究会全国集会記録集』(全国労音ニュース2月号別冊)	1962. 2.--
「ニッポン語とアメリカ語 (上) ～ (下)」	『アカハタ』	1962.2.26-2.27
「反帝闘争と翻訳の役割 第二回A・A作家会議の『申しあわせ』」	『アカハタ』	1962. 4.16
「文学五選② 文学の歴史を考えながら作品を読むことをすすめます」	『学習の友』第104号	1962. 5. 1
「アキタ・ウジャク(秋田雨雀)さんの死」	『アカハタ』	1962. 5.16
「植民地文化とのたたかい」	『学習の友』第105号	1962. 6. 1
「民主憲法のためのわが党のたたかい」	『アカハタ』	1962. 6. 8
(座談会) 「民族芸能を守る座談会」	『アカハタ』	1962. 6.23
「愛国心」	『アカハタ』	1962. 9.10
「都政についての私の抱負」	『アカハタ』	1962.12. 2
『たまをあらそう』	理論社	1962.12.--
「AMIT EN A NAGY TOLSZTOJTOL TANULTAM」	『TOLSZTOJ EMLEKKONYV』 FOVAROSI SZABO ERVIN KONYVTAR BUDAPEST	1962.--.--
「ゼアミ(世阿弥)の現代的意義」	『文学』第31巻第1号	1963. 1.10
「『墨田川』と『山椒太夫』 世阿弥出生六百年記念のために」	『アカハタ』	1963. 1.12

『ヤマシロ・国一揆』について」	『ひびき』第 113 号	1963. 2.--
「イデ・タカシくんと結びつき」	『出隆著作集』月報 2	
	勁草書房	1963. 2.--
「あたらしい型の人間」	『文化評論』第 16 号	1963. 3. 1
「わらび座」	『ひびき』第 114 号	1963. 3.--
「新しい人生観 とくに、わかい人人のために」	『月刊学習』第 26 号	1963. 3. 1
「わたしが大原幽学をとりあげた目的」	『人物叢書附録』第 104 号（中井信彦『大原 幽学』）	吉川弘文館 1963. 4. 5
「二つの事実 地方選挙でであった実例」	『アカハタ』	1963.4.26
（作詞）「おおしく進め」	原太郎編『日本民謡合唱集』	
	飯塚書店	1963. 5.20
「若い作家たちへの期待 （上）～（下）」	『アカハタ』	1963.6.15-6.16
「芸術における愛国主義と国際主義の統一 日本芸術の新しい方向」	『月刊学習』第 30 号	1963. 7. 1
『ハコネ用水』（新装版）	理論社	1963. 7.--
「新しい共産主義と新しい厭世主義 戦争・階級・人生観」	『月刊学習』第 31 号	1963. 8. 1
「戯曲『世阿弥』について 芸術上のある原則問題 （上）～（下）」	『アカハタ』	1963.10.12-10.13
（対談）「対談 たつ年よもやま話 （上）～（下）」	『アカハタ』	1964.1.1-1.4
「農民闘争実録 長野県西塩田村小作争議 （1）～（12）」	『アカハタ』日曜版	1964.2.2-4.19
「子供のための伝記文学はどうあるべきか」	『日本児童文学』第 90 号	1964. 5. 1
「佐藤春夫さんのこと」	『アカハタ』	1964. 5.14
「能と狂言 演目の解説を含めて」	『ひびき』第 130 号	1964. 7.--
「ニッポン音楽の歴史的特色とこれからの方向」△	『月刊労音』第 77 号	1964. 9. 1
（編）『柳瀬正夢画集』	新日本出版社	1964.11.20
「連載ニッポンの音楽（1）（ニッポン音楽の勤労者的な理解のために）ニッポン音楽の特殊性と原則性」	『ひびき』第 136 号	1965. 1.--
（座談会）「新春放談 民族芸能家・中国の旅」	『文化評論』第 40 号	1965. 2. 1
「労働者が狂言をとりあげる意義」	『ひびき』第 137 号	1965. 2.--
「連載ニッポンの音楽（2）（ニッポン音楽の勤労者的な理解のために）労働者と音楽」	『ひびき』第 137 号	1965. 2.--
「連載ニッポンの音楽（3）（ニッポン音楽の勤労者的な理解のために）古代における音楽の国際的交流」	『ひびき』第 138 号	1965. 3.--
「吉田玉助さんの死 民族芸能の問題」	『アカハタ』	1965. 3. 3
「挨拶」（邦楽教室第 1 回卒業式）	『月刊労音』第 86 号	1965. 4. 1
「連載ニッポンの音楽（4）（ニッポン音楽の勤労者的な理解のために）コトバと音楽」	『ひびき』第 139 号	1965. 4.--
（合評会）『『狂言の会』合評会から」	『ひびき』第 139 号	1965. 4.--
（対談）「老舎・劉白羽の両氏にきく 日中両国作家の友好と社会主義革命時代の中国文学」	『アカハタ』	1965. 4.18
「連載ニッポンの音楽（5）（ニッポン音楽の勤労者的な理解のために）ニッポン語」	『ひびき』第 140 号	1965. 5.--
「連載ニッポンの音楽（六）（ニッポン音楽の勤労者的な理解のために）政治と音楽」	『ひびき』第 141 号	1965. 6.--
「共産党は音楽と舞踊を人民のものにかえた 『中国民族歌舞団』をむかえて」	『アカハタ』	1965. 6.19
「佐倉義民伝 甚兵衛渡しの際の段」	『月刊労音』第 89 号	1965. 7. 1

『佐倉義民伝』について	『月刊労音』第 89 号	1965. 7. 1
「連載ニッポンの音楽 (7) (ニッポン音楽の勤労者的な理解のために) 伝統音楽とヨーロッパ音楽」	『ひびき』第 142 号	1965. 7.--
「初演にあたって」	『ひびき』第 143 号	1965. 8.--
「連載ニッポンの音楽 (8) (ニッポン音楽の勤労者的な理解のために) 植民地主義音楽と民族音楽」	『ひびき』第 144 号	1965. 9.--
「連載ニッポンの音楽 (9) (ニッポン音楽の勤労者的な理解のために) ニッポン音楽の進む道」	『ひびき』第 145 号	1965.10.--
「歌劇 山城・国一揆」	『月刊労音』第 92 号	1965.10. 1
「天皇制ならびに皇室の問題」	竹内良知編集・解説『マルキシズムⅡ』(現代日本思想大系 21)	
	筑摩書房	1965.10.20
「ヤマシロ国一揆」	『ひびき』第 146 号	1965.11.--
「民謡発展の方向をどこに求めるか 『おれたちの山』(わらび座・いちよう座合同公演) から学ぶもの (上) ~ (下)」	『アカハタ』	1965.11.16-11.17
(座談会) 「『山城・国一揆』をめぐって」	『歴史評論』第 185 号	1966. 1. 1
「一九六六年の抱負 民族芸能を守る会 組織を大きくし芸能の内容を高めたい」	『アカハタ』	1966. 1.11
「バクチはなぜはやる？」	『学習の友』第 149 号	1966. 2. 1
「狂言について」	『ひびき』第 150 号	1966. 3.--
「ならびが岡と『ままこ算』」	『民主文学』6 月号	1966. 6. 1
「労働者階級と人形劇 文楽例会のために」	『ひびき』第 155 号	1968. 3.--
「民族伝統の問題 『左』右の偏向とのたたかい」	『赤旗』	1966.10. 4
「第四回全国理事会 閉会のあいさつ」	『日中友好新聞』号外	1966.11. 1
「11・28 中央決起集会での記念講演 当面の情勢と日中国交回復運動について」	『日中友好新聞』第 515 号	1966.12.19
「専門家より会員へ新年のことば」	『ひびき』第 160 号	1967. 1.--
「かいせつ『さんしょう太夫』について」	『月刊労音』第 106 号	1967. 2. 1
「新曲さんしょう太夫」	『月刊労音』第 106 号	1967. 2. 1
「新年にあたって」	『日中友好新聞』第 565 号	1968. 1. 1
「軍国主義と『かたりもの』」	『赤旗』	1968. 2.23
「自由大学の思いで」	上木敏郎編『土田杏村とその時代』第 7・8 合併号	1968. 3.20
『研究資料Ⅰ ニッポン語』	ニッポン音楽研究室	1968. 6.20
「基地八年」	『文化評論』第 85 号	1968.10. 1
「新曲 ツルの巣ごもり 偉大なベトナム人民にささげる」	『文化評論』第 86 号	1968.11. 1
「一弦琴」	『赤旗』	1969. 2.13
「両国人民の友好のために 『巨人ニジガロ』出版にあたって」	『日中友好新聞』第 645 号	1969. 9. 3
「民族芸能・戦争・軍国主義」	『民族芸能』第 41 号	1969. 9.19
「青春と私 第 2 回 人生問題から社会問題のナヤミへ」	『前衛』第 304 号	1970. 2. 1
「一九七〇年の年頭にあたって 『民族芸能を守る会』の新しい任務」	『民族芸能』第 45 号	1970. 1.19
「書評 桜田常久著『安藤昌益』」	『読書の友』第 361 号	1970. 2.--
*筆名 高倉テル		
「民族と文化」	全学連中央執行委員会出版部編『知識人・文化論』	全学連出版部 1970. 3.15
「信州のことさまざま」	『読書の友』	1970. 7.27

『大原幽学』	東邦出版社	1971. 1. 1
(アンケート) 「仏教はこのままでいいのか 仏教、とくに、ニッポンの仏教について」	『大法輪』第38巻第1号	1971. 1. 1
年始の挨拶	『民族芸能』第57号	1971. 1.19
『民族芸能の話(1)』(函館労音文芸学院叢書(1))	函館労音文芸学院	1971. 2.20
『箱根用水』	東邦出版社	1971. 3. 1
「辞世・ゆいごん・『さいごの一句』」	『文化評論』第115号	1971. 3. 1
「第百回例会おめでとう」	『民族芸能』第59号	1971. 3.19
『民族芸能・作品集(1)』(函館労音文芸学院叢書(2))	函館労音文芸学院	1971. 5.23
「五〇年後のニッポン」	『日本及日本人』第1500・1501合併号	1971. 9. 1
「新曲 シカの遠音」	『文化評論』第122号	1971.10. 1
「山宣記念碑の再建 『人生は短く科学は長い』」	『赤旗』	1971.10. 7
『狼』	日本青年出版社	1971.11.20
「ことしという年」	『民族芸能』第69号	1972. 1.19
「日本史発掘⑮ 箱根用水と友野与右衛門」	『日本及日本人』第1508・1509合併号	1972. 5. 1
「新年のごあいさつ」	『民族芸能』第81号	1973. 1.19
「中江兆民・幸徳秋水など」	『日本近代文学大系月報42』(第50巻付録)	1973. 4.--
(アンケート) 「私の研究」	『長野』第51号	1973. 9. 1
『近松から何を学ぶか? ある労音会員との対話』	パンフレット	1973. 6.10
「子供のための伝記文学はどうあるべきか」	『日本児童文学』第19巻第8号	1973. 7. 1
『唐人おきち、新曲 シカの遠音、新曲 さくら』	パンフレット	1973. 7.10
「自由大学かんけいの書簡集」	山野晴雄編『伊那自由大学関係書簡(横田家所蔵)』自由大学研究会	1973. 9. 1
「陳情くどき 南の島の少年のなげき」	『文化評論』第150号	1974. 1. 1
「新しい年」	『民族芸能』第93号	1974. 1.19
「私が感動した1冊の本(6) オットー・イエスペルセン著『言語、その本質・発展・起源』」	『祖国と学問のために』第308号	1974. 5.15
『梅若塚について 「梅若伝説」の現代的意義』(民族音楽研究シリーズ) パンフレット	伝統音楽研究会「きぬたの会」	1974. 7.23
「妹尾義郎さんについて」	妹尾義郎記念会編『妹尾先生を偲んで』妹尾義郎記念会	1974. 9.11
「梅若塚と現代 『梅若伝説』の現代的意義」	『季刊歴史文学』創刊号	1974.11.10
「ペキンの正月」	『日中友好新聞』第904号	1975. 1. 1
『柳田国男さんと共産主義 たんじょう百年のために』(民族音楽研究シリーズ) パンフレット	伝統音楽研究会「きぬたの会」	1975. 2.--
『五木の子もり歌』(民族音楽研究シリーズ) パンフレット	伝統音楽研究会「きぬたの会」	1975. 4.23
「友野与右衛門 日本の水利史に光る箱根用水」	日本及日本人社編『日本史発掘』日本及日本人社	1975. 4.25
「新年のことば」	『民族芸能』第117号	1976. 1.19
「河上肇さんの思い出」	『信州白樺』第21号	1976. 5.30
(対談) 「戦争と子供と童話と」	『日中友好新聞』第998号	1977. 1. 1
『でかせぎの歌』(民族音楽研究シリーズ) パンフレット	伝統音楽研究会「きぬたの会」	1977. 1.25
「でかせぎの歌」	『文化評論』第192号	1977. 4. 1

「箱根用水と友野与衛門 農をおこした先達」	『あすの農村』第 29 号	1977. 4. 1
「カザミ・アキラ（風見章）さんの思想的発展」	『新関東』第 109 号	1978. 3. 1
「自由大学のこと」	『水仙の花咲く家 関口竜男・菊子金婚式記念 文集』 茨城県友部町大沢金婚式実行 委員会	1978. 2.15
「風見章さんの思いで 忘れえない五度の出会い」	『新関東』第 110 号	1978. 3. 1
「柳瀬君について」	『愛媛新聞』	1978. 4. 7
「自由大学のこと」	『信州白樺』第 29 号	1978. 5.20
『新曲 さんしょう太夫 鳥おい歌の段』パンフレット	「ふきの会」	1978.12.15
「ツチダキョーソン土田杏村」	『日本人名大事典』第 4 卷 平凡社	1979. 7.10
「ヤマモトセンジ山本宣治」「リョーカン良寛」	『日本人名大事典』第 6 卷 平凡社	1979. 7.10
『新曲 佐倉義民伝 甚兵衛わたし場の段』パンフレット	「ふきの会」	1979.10. 7
『新曲 まんざい』パンフレット	「ふきの会」	1979.10. 7
『でかせぎの歌、おんど山城・国いき、新曲「さくら」』パンフレット	「ふきの会」	1980.11. 8
『蟬丸神社について ニッポン民族芸能の近代的発展』パンフレット		1980.11.28
「平野義太郎さんのこと」	平野義太郎人と学問編集委員会編『平野義太郎 人と学問』 大月書店	1981. 2. 2
「恩師・新村出先生」	新村猛編『美意延年』 新村出遺著刊行会	1981. 7.20
「自由大学がわたしを変えた 自由大学の生徒がわたしの先生になった」	『自由大学運動 60 周年記念誌』	1981.11. 1
「自由大学運動 60 周年記念集会の開催にあたって ひとつのこと」	『自由大学運動 60 周年記念誌』	1981.11. 1
「故郷を思う」	『高知民報』第 650 号	1982. 1. 1
「新しい時代の先頭に」	創立 30 周年記念誌編纂委員会『日本の歌 民族の 舞ーわらび座の 30 年ー』 わらび座	1982. 5. 1
「自由大学運動六十周年記念集会 ごあいさつのことば」	『自由大学研究通信』第 5 号	1982. 8. 1
「ちり紙の原稿 『二・四事件』の思いで」	治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟長野支部編 『歴史への証言 「2・4 事件」と治安維持法』	1983. 2.--
「自由大学を語る」	自由大学研究会編『自由大学運動と現代 自由 大学運動 60 周年集会報告集』 信州白樺社	1983.10.10
「自由大学運動六十周年記念集会 ごあいさつのことば」	自由大学研究会編『自由大学運動と現代 自由 大学運動 60 周年集会報告集』 信州白樺社	1983.10.10
「自由大学のこと」	自由大学研究会編『自由大学運動と現代 自由 大学運動 60 周年集会報告集』 信州白樺社	1983.10.10
「わかものたちへの絶対の信頼」	中村輝雄編『青少年へ贈る言葉 わが人生論 高知編（上）』 文教図書出版	1983.12.10
「カワカミ・ハジメ先生のこと」	『河上肇全集 月報 27』 岩波書店	1984. 7.--
「序文」	上小農民運動史刊行会編『長野県上小地方農民	

	運動史』	上小農民運動史刊行会	1985. 4.10
「天皇制ならびに皇室の問題（抄録）」	歴史科学協議会編『歴史科学大系 天皇制の歴史上』第 17 巻		
「豊多摩刑務所」	校倉書房	1986. 2. 1	
	豊多摩（中野）刑務所を社会運動史的に記録する会編『獄中の昭和史 豊多摩刑務所』		
	青木書店	1986. 3.15	

「国語・国字改革運動にたいする私の態度（1）」	『Romazi no Nippon』第 402 号	1986. 9. 1	
「国語・国字改革運動にたいする私の態度（2）」	『Romazi no Nippon』第 403 号	1986.10. 1	
「国語・国字改革運動にたいする私の態度（3）」	『Romazi no Nippon』第 404 号	1986.11. 1	
「国語・国字改革運動にたいする私の態度（4）」	『Romazi no Nippon』第 405 号	1986.12. 1	
「地方部隊の先頭に（書簡）」	大沢久明その人と時代刊行会編『大沢久明 その人と時代』	北方新社	1987. 6.20
*筆名 高倉テル			
『橋本英吉、タカクラ・テル集』（日本プロレタリア文学集・32）	新日本出版社	1988. 4.30	
「百姓の唄（抄）」	荒井武美編『長野県文学全集』第 1 期（小説編）		
	第 4 巻（昭和戦前編 1）	1988. 7.--	
『ロボットの悲しみ』（タカクラ・テル文芸作品集）	高倉太郎	1992. 8.27	
『タカクラ・テル』（高知県昭和期小説名作集第 5 巻）	高知新聞社	1994.11.25	
*筆名 高倉テル			
「ストーリーテリングのためのお話 頭に食いついた車の輪ーインドの昔話」	『季刊子どもと本』第 58 号	1994. 7. 1	
『ミソクソその他』	恒文社	1996. 6.20	
*筆名 高倉テル			
「ストーリーテリングのためのお話 鷺と蟹ーインドの昔話」	『季刊子どもと本』第 72 号	1998. 1. 1	
*筆名 高倉輝			
「ストーリーテリングのためのお話 鬼子母ーインドの説話」	『季刊子どもと本』第 74 号	1998. 7. 1	
*筆名 高倉輝			
「知識の良心」	津田雅夫編『三木清研究資料集成』第 6 巻		
	クレス出版	2018.10.25	
*筆名 高倉テル			

掲載紙誌不明分

「聖王阿育のこと 『孔雀城』上演に際して」 11.7 信州沓掛にて
 「『智のための悲哀』を読む」 1924.9.7 信州別所
 「『プラトン』を読む」 1924.10.15
 「鷗外と漱石」
 「平田禿木氏の『英文学印象記』を読む」 2.22 信州別所
 「文学の責任」 『都新聞』1938.1 ～ 3
 「国民の歌」 『毎日新聞』1946.9
 「ことばと文字」 『東信文学』創刊号
 「『特殊部落史』を読む」 11.13
 「ニッポン民族の運命をだれがえがくか？ ニッポン文学における現実主義（リアリズム）の発展について」